

# 送辞

今日も朝から、島には汽笛が響き渡り、いつもと同じ時間が流れています。校庭の桜のつぼみは、新生活に期待する、皆さんの心と同じようにふくらんできました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先輩方との別れが近づき、寂しい気持ちでいっぱいです。

思い起こされるのは、たくさんの行事の中での先輩方の活躍です。特に印象に残っているのは、運動会です。

今年は練習時間が短く、大変だったと思います。短い練習時間のなか、団長の渚さんと大夢さんを中心に、成功に導いてくれました。副団長の琴波さんや紗良さん、琴美さんは、小学生に優しくダンスなどを教え、運動会を支えてくれました。

また、一緒に過ごした大切な時間の中で、一番心に残っているのは部活動です。男子バレーボール部は、夏も冬も、鬼コーチのもと、毎日毎日夜遅くまで練習に励んでいましたね。体育館では厳しい言葉しか発さないコーチも、家に帰ってくると、渚さんと大夢さんを褒める話をよく聞いていました。そんな厳しい練習が、アシックス

カップで県ベスト8というすばらしい結果になりました。最後の夏の中体連でも、県大会を目指し、戦う姿が格好良かったことを思い出します。点数を大きくひっくり返した、渚さんの強烈なサーブ。ボールが床につくまで、手のひらを滑り込ませる、大夢さんのあきらめない姿は、多くの人に感動を与えました。

女子バレーボール部の先輩方とは、日々の練習を通して多くの時間を過ごし、きついことも悔しいことも共に乗り越えてきました。なかなか結果は出ませんでしたでしたが、宗像交流大会で初めて手にした賞状が、私たちに自信をくれました。そこからまた、心を一つにして臨んだ中体連の、最後の福間東戦が私の心に残っています。格上の相手と互角の試合を展開し、琴美さんのトス、琴波さんのレシーブ、紗良さんのサーブの一本一本に、先輩方の最後にかける強い思いが、一つのボールと一緒に繋ぐ私にも伝わってきました。

このように、先輩方が残した足跡は、とてもすばらしく、一緒に過ごした時間は、どの場面をとっても貴重なものです。私たちも先輩方の後を追っていけるよう、これからも日々の練習に励み、多くの方々から応援していただけるチームを目指して頑張ります。

今ここで、みなさんの顔を見ていると、これまでの一人ひとりの思い出がまた込み上げてきます。

大夢さんは、みんなのムードメーカーとして、いつもその場の雰囲気をごまかせ、明るくしてくれました。そんな大夢さんですが、負けず嫌いな一面もあり、体育の授業でしていたバドミントンに負け、本気で悔しがっていました。どんなことでも一生懸命に取り組み、思い切り楽しんでいる姿が忘れられません。

渚さんは、学校では生徒会長、部活動ではチームの柱のキャプテン、エースとして、とても頼もしい存在でした。JOCの福岡選抜に選ばれ、福岡県の代表として戦う姿は、ずっと私の憧れです。見た目はぶっきらぼうですが、素直に気持ちを言葉にしてくれる分、私も気持ちを打ち明けられる存在でした。

紗良さんは、誰にでも平等に優しい先輩でしたので、下級生や小学生からもとても慕われていました。途中からでしたが、バレー部に入ってくれて、同じコートでバレーをすることができて、とても嬉しかったです。

琴波さんは、自分の役割をきちんとこなす人です。文化祭の時は、練習をスムーズに進め、見ている人が感動する文化祭を作り上げてくれました。私たちが見えない所で人一倍がんばり、終わった後に泣いている琴波さんを見て、来年も必ずいい文化祭にしようと思いました。バレーボールを最後までやり通した姿から、自分で決めた

ことは最後までやり通すという、強い心を学ぶことができました。

琴美さんとは、部活で何度もぶつかり合い、たくさん迷惑もかけました。その分、琴美さんにしか言えないこともあり、苦しい時に私の心の支えになってくれました。学校では、保健給食委員長として、運動会や日々の給食のことなど、何でもうまくまとめ、指示してくれた琴美さんを私は尊敬しています。

先輩方への思いは強すぎて、思い出は語り尽くせません。先輩方はこれから、あの汽笛と共に多くの期待を乗せて、十五年間育ててくれたこの島を旅立っていきます。もしも、つらい思いや、苦しい思いをした時は、島を思い出してください。ここにはたくさんの味方と、最高の応援団がいます。私たちも先輩方が残してくれた思いを受け継ぎ、頑張っていきます。頑張る場所は違っても、私たちの心はいつも大島魂でつながっています。

最後になりましたが、これからの先輩方のご健康とご活躍を祈念して、贈る言葉とさせていただきます。

平成三十年 三月九日

在校生代表 広田 真桜